

開館 40 周年記念特別展「チガサキコレクション」第 3 弾



並び立つ古代のお寺と役所

「下寺尾遺跡群出土品展」

おかげさまで
文化資料館は

主催＝茅ヶ崎市教育委員会
協力＝神奈川県教育委員会

開館 **40** 周年

茅ヶ崎市文化資料館
Chigasaki City Museum of Heritage

ごあいさつ

昭和46年7月1日に、茅ヶ崎の歴史、文化、自然を守り伝えるため開館した文化資料館は、平成23年7月1日で、開館40周年を迎えました。

「茅ヶ崎」にこだわり続け、40年にわたり博物館活動を展開してきました。その間、まちの自然・歴史を調査・研究し、収集・保存してきた資料は5万点以上に上ります。その資料たちの中から選りすぐりの自然誌、民俗、考古資料を展示する、開館40周年記念特別展「チガサキコレクション」を開催いたします。

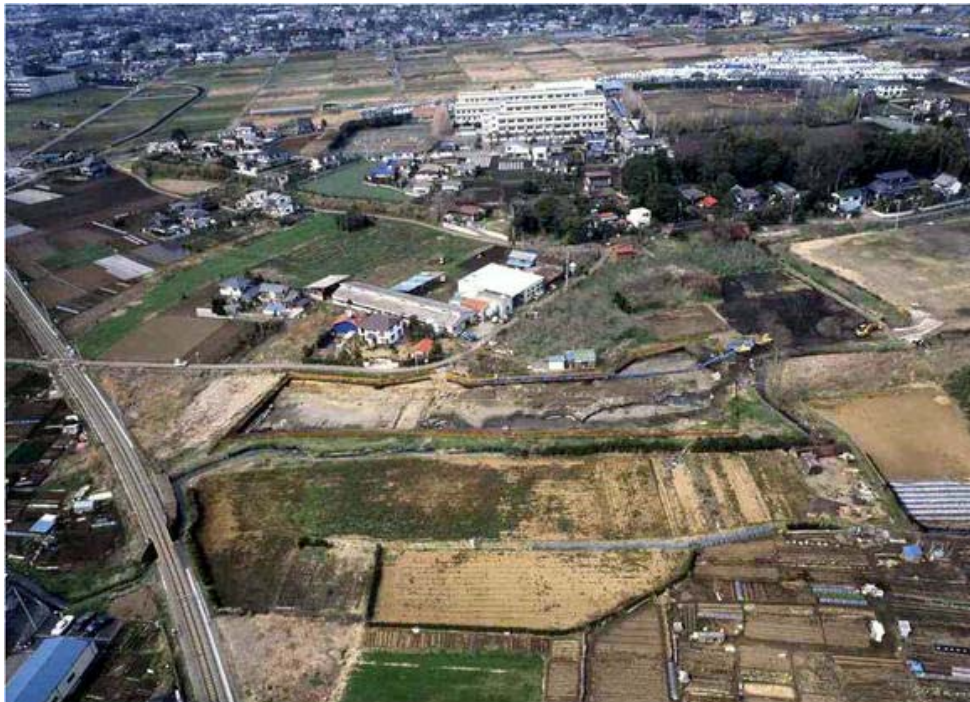
その第3弾である本展では、国指定を視野に史跡整備を進めている下寺尾遺跡群を、「発掘された日本列島2011」展に出品した資料を中心に紹介いたします。下寺尾遺跡群は、近年の調査で、7世紀頃にお寺と役所が存在していたことが明らかになってきた、国内でも非常に貴重な遺跡です。

なお、神奈川県教育委員会が所管する資料も多く展示しております。

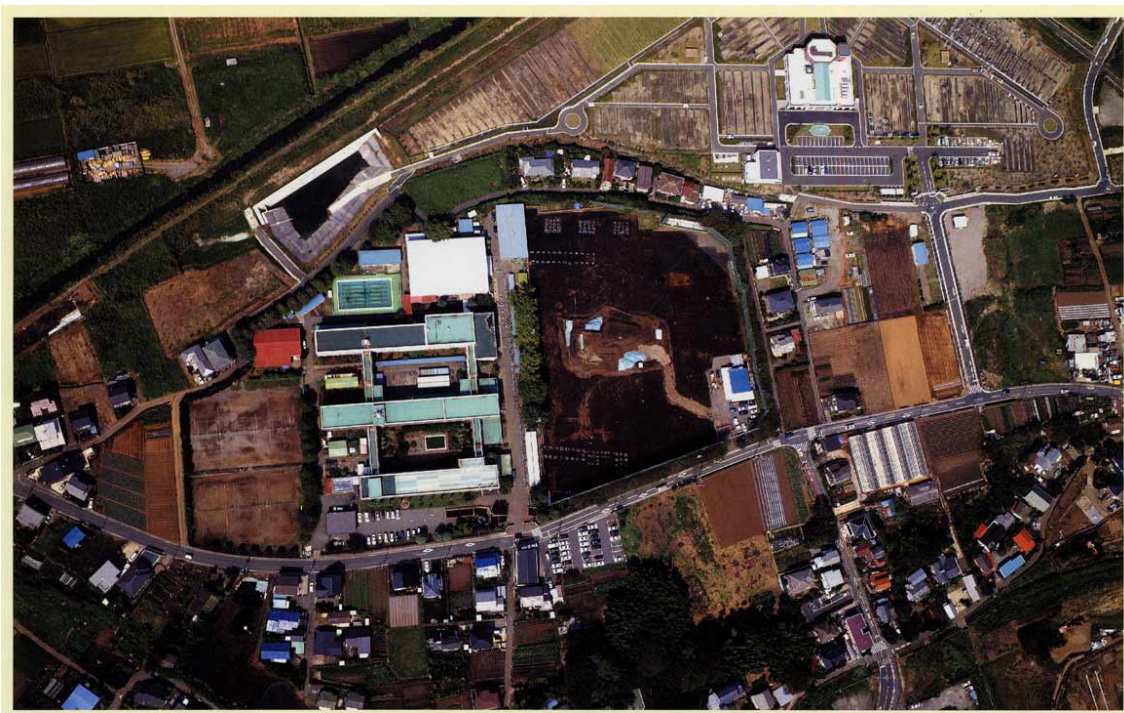
本展が古代の茅ヶ崎を考える機会となることを願っております。

2012年3月

茅ヶ崎市教育委員会



下寺尾地区の様子



発掘調査時の県立茅ヶ崎北陵高校（2002年）

遺跡の時代背景

今から約1,300年前の奈良時代、日本は中国の影響を受けて、現在の奈良に平城京を形成し、律令制度に基づく中央集権国家が確立した時代です。

地方自治体の原型となる評（のちの郡）、その下に里（郷）という行政組織が整備されました。戸籍に登録された里に暮らす人々は、田を国から支給される一方、租・庸・調などの各種物納や労役の課税を担っていました。

そのころの神奈川県は、現在の川崎市や横浜市の大部分が、武蔵国の南部にあたり、その他は相模国と呼ばれていました。相模国は8郡に分けられ、現在の茅ヶ崎市は高座郡に位置しています。

郡衙と寺院

律令制度の下、中央の出先機関である役所は国府、お寺は国分寺が設置されました。さらに、その下の行政組織が郡で、各郡単位におかれた役所が郡衙（郡家）です。これまで神奈川県内では横浜市（都筑区）・鎌倉市の2か所で発見されていましたが、近年は川崎市（宮前区）と茅ヶ崎市の郡衙の存在が明らかになってきました。

郡衙は、郡庁・正倉・館・厨などの施設で構成され、国府よりも古い7世紀末頃には成立していたと考えられています。郡の政治を司る郡司には、主に地元の有力な豪族が任じられ、彼らは国分寺の造営以前から仏教文化を積極的に取り入れ、郡衙周辺に寺院を建立しました。

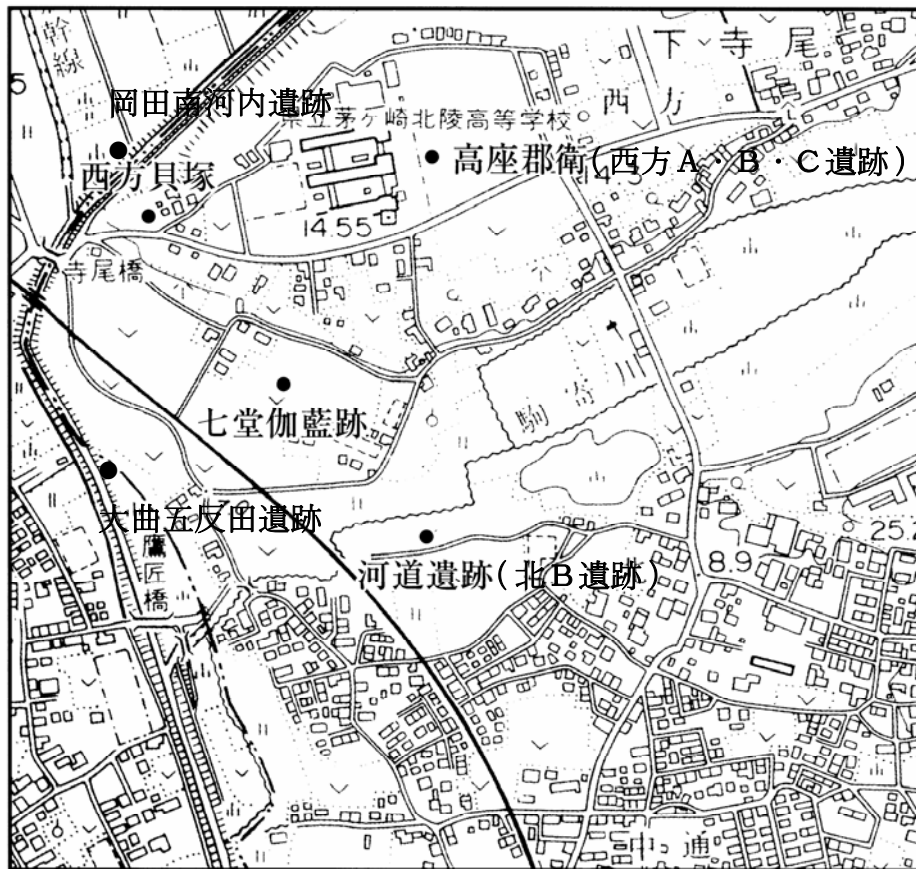
瓦や関連する遺物が出土しても、寺院の伽藍配置などの具体的な構造が明らかになる事例が少ない中、七堂伽藍跡は貴重な遺跡であるといえます。

下寺尾遺跡群とは？

高座丘陵南端部とその南側に形成された砂丘地に位置しています。県立茅ヶ崎北陵高校校地内の調査、周辺の区画整理や小出川河川改修などの開発工事に伴い、相模国高座郡の郡衙、七堂伽藍跡、さらには船着場や祭祀遺跡などが関連する遺跡が7つ発見されています。

【下寺尾遺跡群の7遺跡】

西方A・B・C遺跡、七堂伽藍跡、北B遺跡、寒川町岡田南河内遺跡・寒川町大曲五反田遺跡



周辺地図

高座郡衙

2002年、標高約14メートルに位置する県立茅ヶ崎北陵高校の建て替え工事に伴う調査で、郡庁（役所の中心建物）、正倉、館（役人の宿舎）、厨などが発見されました。

郡庁は、掘立柱建物の正殿と後殿、そして東西の脇殿を「コ」字形に配置した構造です。また、北側には正倉域があり、倉庫の前には長く大きな建物が建てられていたことが明らかになりました。郡庁と正倉の間には、側柱建物5棟で構成される館があります。郡庁は、7世紀末から8世紀初めに建てられ、極めて短い期間に存在したと想定されています。

郡庁域は、南北方向は不明ですが、東西方向は約65メートルの規模です。郡衙域からは、円面硯などが出土しています。



北側の正倉域（西方A遺跡）



南側の正殿、後殿、脇殿（西方A遺跡）

七堂伽藍跡

郡衙の南西 250 メートル、標高約 8 メートルの砂丘上に、七堂伽藍跡があります。付近に礎石がみられるほか、古くから古瓦が採集されてきたので、古代寺院の存在が推定されてきました。

2000 年以降の継続的な調査で、伽藍域は一辺約 78 メートルの方形であることが明らかになっています。掘立柱建物群や、伽藍域の北東部には地固めをした版築や掘り込み地業が確認され、主要な建物の一部が分かっています。

遺構の重なりや出土遺物などから、7 世紀から 11 世紀初めまでの間に営まれたもので、いくつかの時期に分かれることが分かりました。鬼瓦・軒丸瓦、二彩陶器、香炉などが発見されています。また、推定伽藍域の外でも、お寺に関する遺物が出土しています。



七堂伽藍跡の柱穴跡、伽藍の北東角



版築（七堂伽藍跡）



寺院に完成する出土遺物（一部）

運河と船着き場と祭祀場

寺院の南西約 170 メートルには、7 世紀から 10 世紀までの^{たてあな}堅穴建物や掘立柱建物、運河、^{みぞ}溝、そして多数の遺物が発見されました。

運河は、自然の河道を直線的に^{くつきく}掘削しなおして作られていました。また、運河に降りる^{ひらば}平場も見つかり、船着場の機能が推定されます。

運河の流路にそって大型の掘立柱建物が見つかっており、隣接する寺院、郡衙に関連する施設であると考えられます。倉庫の「屋」の可能性もあります。この周辺は、郡衙や寺院の物資を運搬する運河と船着場である「津」であったのかもしれませんが。

運河からは、^{かたながた}刀形、^{じんめんぼくしょどき}人面墨書土器、^{こうちやうじゅうにせん}皇朝十二銭など、^{さいし}祭祀に使われたさまざまな道具が出土しています。川は交通の手段であると同時に、古代の祈りや^{はら}祓い（はら）い（はらい）の場であったと考えられます。



船着場の様子（岡田南河内遺跡）

下寺尾遺跡群のこれから -

下寺尾遺跡群は、郡衙（郡家）や寺院、船着場や祭祀遺跡など古代の役所やお寺に関連する施設が多く見つかри、当時の地形がとてもよく残されています。古代の高座郡の中心地の景観を現代に伝えてくれる、国内でも非常に貴重な遺跡です。

茅ヶ崎市教育委員会では、国や県などの関係機関、市民のみなさまのご協力とご理解を得ながら、国指定の史跡を目指し、整備を進めていきます。



古代の高座郡衙とその周辺の景観復元イラスト（構成：田尾誠敏、イラスト：霜出彩野）

さいごに - 「モノ」を集めて「コト（記憶）」を保存する -

モノを集めるということをしている、もしくはかつてしたことはありませんか？

モノを集める「コレクション」は、人間の「獲得する」という本能に結びついていると言われています。モノを集める行為の起源をたどっていくと、旧石器時代にさかのぼることができると言われています。博物館の歴史の始まりは、そういった個人コレクターとそのコレクションなのです。それでは、博物館がモノを収集して保存することと、個人コレクションの違いは为什么呢？

一番の違いは、博物館や美術館は、社会や地域のニーズに応え、学術的な研究に基づいて、計画的かつ合理的にモノを収集し、地域だけでなく国の大切な財産として保存することです。そして、テーマにそって収集したものを、時間やかたち、特徴といったものに応じて並べ展示することで、新たな価値や感動を生み出します。そして博物館は、モノとそこに含まれる情報（コト）を、次世代に伝えるという社会的な役割を担っていることです。

ここでいう「コト」は茅ヶ崎の考古であり、かつての人々のくらしの記憶や想いです。

開館 40 周年を記念して、自然、民俗、考古の収蔵資料のほんの一部を紹介してきました。これからも茅ヶ崎に関する資料を記録し、保存し、次世代に伝える役割を担っていくため、文化資料館は今後も市民のみなさんと協力した活動を展開していきます。



左上：墨書土器、左下：紡錘車（「神」の文字あり）、右：人形



左：薬壺の蓋



右：二彩陶器の火舎



左：軒丸瓦



右：鬼瓦

**開館 40 周年記念特別展「チガサキコレクション」第 3 弾
「並び立つ古代のお寺と役所—下寺尾遺跡群出土品展—」**

主催 茅ヶ崎市教育委員会

茅ヶ崎市文化資料館（担当：須藤 格）

協力 神奈川県教育委員会

発行 平成 24（2012）年 3 月

<http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/kankou/8137/010670.html>